

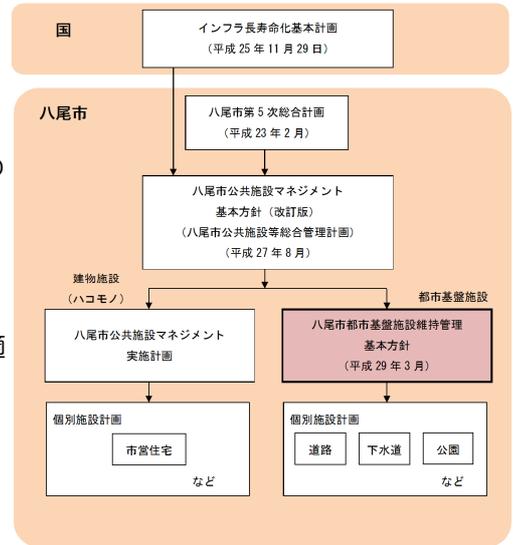
八尾市都市基盤施設維持管理基本方針 概要版

背景と目的

平成 24 年 12 月に発生した中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故を契機として、公共施設の老朽化問題が社会的に注目されるようになりました。この事故を受け、国は平成 25 年を「社会資本メンテナンス元年」と位置付け、同年 11 月 29 日付けで国土交通省にて「インフラ長寿命化基本計画」が作成され、各自治体に「公共施設等総合管理計画」の策定要請を出すなど、公共施設等の計画的な維持管理の推進が求められました。

本市においても建物施設（いわゆるハコモノ）だけでなく、都市基盤施設を含めた公共施設等のあり方について基本的な方向性を示す「八尾市公共施設マネジメント基本方針（改訂版）」を作成し、公共施設等を適切に維持管理する取り組みに着手したところです。八尾市都市基盤施設維持管理基本方針（以下、本方針）は、特に本市が管理する都市基盤施設毎の性質や課題等に応じて、適切な維持管理手法を選択するための基本的な考え方を示すものであり、今後は、本方針に基づき計画的な維持管理を進めていきたいと考えています。

<本方針の位置付け>



現状と課題

現状

本方針は、以下の都市基盤施設を維持管理・更新の対象としています。

<対象とする主な都市基盤施設>

施設種別		施設量	単位
道路	橋梁	478	橋
	道路（市道）	596	km
河川	準用河川	1,791	m
	普通河川	10,113	m
下水道	管渠	749	km
公園	都市公園等	349	箇所

（H29.3 現在）



橋梁（式部橋（恩智川））



道路（市道八尾第 400 号線）



河川（準用河川・荒川）



下水道（管渠）

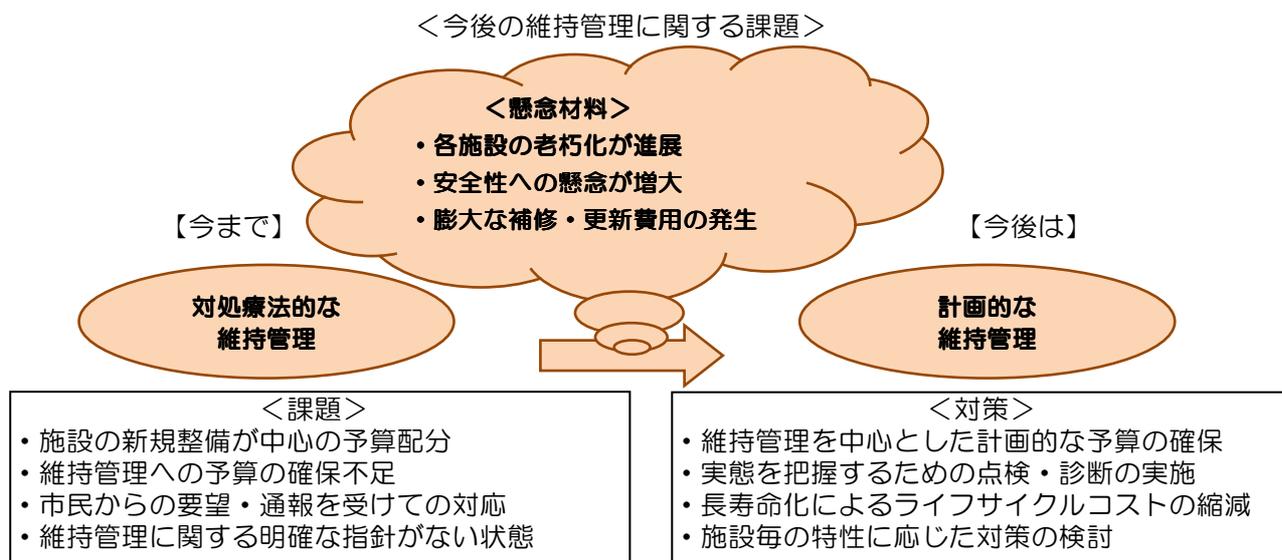


公園（美園公園）

課題

本市では、これまで、パトロールや市民からの要望・通報等を受けて損傷を確認してから補修・修繕を行う対処法的な維持管理を行っていましたが、施設の老朽化が進展しているなか、このような対応では、市民の安全・安心を脅かすリスクの増大が懸念されるほか、施設の補修・更新等に必要となる予算の発生が特定の時期に集中してしまう恐れがあります。

今後は、厳しい財政状況や人口減少、少子高齢化の進展など社会経済環境の変化によって、これまでの制度や体制では、安全性を確保し続けることが困難な施設も想定されるなか、既に現場が直面している課題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを迅速かつきめ細かく進めていくとともに、計画的な維持管理手法を導入し、持続可能な維持管理・更新（メンテナンス）の構築に向けた取り組みを進めていく必要があります。



維持管理基本方針

本市における都市基盤施設の維持管理の課題を踏まえ、以下の維持管理基本方針を設定しました。

1. 日常的な維持管理の着実な実施

限られた財源と人材のなか、施設の損傷状態を日常的に観察し、事故に繋がる重大な損傷の早期発見、迅速な初期対応により、市民、利用者の継続的な安全・安心を確保するための日常的な維持管理を着実に実施します。

2. 個別施設計画に基づく維持管理の推進

施設毎の性質や規模が異なる都市基盤施設の特性に応じて、効率性や経済性、社会的影響等の視点から、長寿命化のための補修・修繕や施設の更新を的確に実施していくための適切な維持管理方法を選択した個別施設計画に基づく計画的な維持管理を推進します。

3. 都市基盤施設のマネジメント体制の確立

継続的な維持管理の取り組みを進めていくにあたり、限られた資源（予算・人材・技術）を最大限に活用するため、庁内はもとより、関係機関（国・府）や大学機関、市民・企業との協力体制を築き、PDCAサイクルによるマネジメント体制を確立します。

また、日常的なパトロールや要望・通報、点検・診断の結果や修繕履歴など、確実にデータ蓄積を行うための更新ルール、実施体制を構築します。

日常的な維持管理の実施

日常点検（定期パトロール）

- ・管理瑕疵を未然に防ぎ、事故に繋がる重大な損傷を早期発見します。
- ・事故に繋がる重大な損傷を早期発見することにより、迅速な初期対応に繋がります。



橋梁パトロール

日常的な維持管理

- ・施設毎の不具合の規模や状況に応じ、こまめに且つ迅速な維持補修を実施します。
- ・施設毎の特性に応じた個別施設計画を策定し、効率的・効果的な維持管理に努めます。

データの蓄積・管理

- ・日常的な維持管理の情報を確実にデータ蓄積する更新ルールを確立します。
- ・計画的なデータ更新作業を実施することにより、効率的・効果的な維持管理に努めます。



舗装の補修

計画的な維持管理

個別施設計画の策定

- ・施設毎の特性に応じて、効率性や経済性、社会的影響などの観点から、必要に応じて計画的な補修・更新等を実施するための個別施設計画を策定します。
- ・将来的な修繕・更新費用を算出し、これらの費用の平準化・低減等を図るための修繕・更新計画を策定します。
- ・「予防保全型」、「事後保全型」、「時間管理型」に分類し、効率的、効果的な維持管理に努めます。
- ・事故につながる重大な損傷（致命的な不具合）を見逃さない点検方法、健全度の評価基準等について定めた点検計画を策定します。

<計画的な維持管理手法の概要>

分類	予防保全型	事後保全型	時間管理型
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・重要度が高い施設 ・ライフサイクルコストの縮減効果の高い施設 ・損傷が軽微な段階で補修等を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコスト縮減効果の低い施設 ・発生した損傷により健全度が低下した段階で補修等を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の状態等にかかわらず、設定した時間の経過によって更新・交換する
施設例	跨線橋、跨道橋、緊急交通路、避難路、5m以上の橋梁、ポンプ施設（機械設備）、下水道管渠（幹線）、公園遊具等	5m未満の橋梁、幹線市道、道路反射鏡、街路樹、下水道管渠（枝線）等	エレベーター、エスカレーター、ポンプ施設（電気設備）等

マネジメント体制の確立

推進体制の構築

- ・「八尾市都市基盤施設維持管理推進会議」を設置し、本方針に基づく計画的な維持管理・更新等について継続的な検討を進めます。
- ・大学機関による技術的なアドバイスや職員研修、各種団体が主催する研修に積極的に参加するなど、職員の技術力向上のための取り組みを進めます。



官学連携：橋梁現地視察

市民、大学、地域社会との協働

- ・YAOアドプト環境美化活動等、既存の市民協働の取り組みを引き続き推進するとともに、市民や団体（校区まちづくり協議会等）との協働による維持管理の仕組みづくりについて検討を進めます。
- ・八尾市と近畿大学理工学部との連携協定（平成28年3月）に基づき、官学連携した資源（予算、人材、技術）の活用を図り、効率的・効果的な維持管理に取り組みます。
- ・企業との連携、協働による維持管理の取り組みについて検討を進めます。

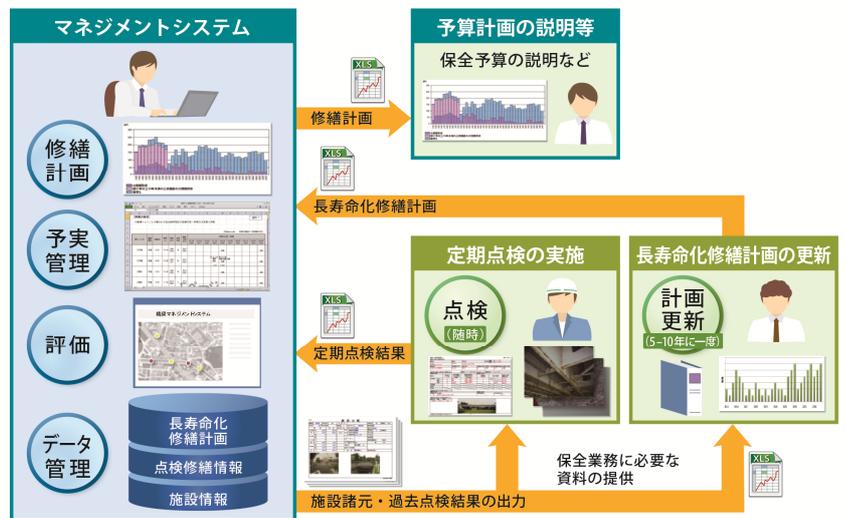


アドプト活動

都市基盤施設のデータベース化

- ・日常的なパトロールや要望・通報、点検・診断結果や対策履歴等、確実にデータ蓄積を行うための更新ルール・実施体制を構築します。
- ・これらの取り組みにより、維持管理・更新（メンテナンス）を効率的に進める仕組みづくりを構築します。

<データベース活用（例）>



フォローアップの実施

本方針を具体化させるにあたり、目標や取り組み内容について、行動計画としてまとめ、それを評価・検証し、PDCAサイクルによる計画的な取り組みを進めていきます。

八尾市都市基盤施設維持管理基本方針（概要版） 平成29年3月

発行／八尾市 編集／八尾市 都市整備部 土木建設課

〒581-0003 大阪府八尾市本町一丁目1番1号 TEL 072-924-3867（直通）

